

縁起でもない！けど考えておきべきお墓のお値段
～樹木葬～

ファイナンシャル・プランナー 有田 美津子

従来、お墓といえば、骨壺を地下に収め、その上に墓石を建てる、または、納骨堂のように建物の中にお骨を納める、という考えが一般的でしたが、最近では、墓石の代わりに樹木や花を植える、樹木葬というスタイルにも人気が出てきました。

都立霊園としては初めて、7月に樹木葬の募集があった「都立小平霊園」の申し込み倍率が1.6倍超になった、という事実からも、今後「樹木葬」という考え方が広がっていくかもしれません。

散骨と似た形と思われるかもしれませんが、樹木葬は「墓地埋葬法」という法律に基づいて「お墓」と認められた場所にしか埋葬することはできません。したがって埋葬許可証が必要になります。現在、特に許可を必要としない散骨とは違いますのでご注意ください。

● 樹木葬が注目される背景について

①承継者がいなくても購入できること

従来の日本では、代々その家の長男が墓を承継する、という考え方が一般的でした。しかし、ライフスタイルの変化で生涯独身者や、子どものいない夫婦、または少子化で女の子しか持たない家族が増えている今、従来型のお墓を購入することをためらう人たちも多くなっています。樹木葬の場合、承継者がいなくても無縁仏にならない、ということが大きなメリットととらえられているようです。

②土地の有効活用

人口密度や地価が高い都市部において、高齢化が加速している現在、将来の墓不足は深刻である、と言われていています。霊園側にすれば土地の有効活用ができ、墓不足の解消につながるというメリットがあります。

③「自然に還る」という理念

エコ理念の広がりなどから、日本人が古来から持っていた「死後は自然の大きな循環の中に還る」という考えが復活しています。樹木葬により土に還ることを望む人も増えているようです。

④「家」の概念が薄れている

「〇〇家之墓」というように、従来「墓」は先祖代々の家督を継ぐ象徴でしたが、現在は「家」の意識が薄れ、夫婦だけの墓、自分だけの墓を望む人も増えています。そういった価値観の変化に対応できるスタイルとして樹木葬の選択をする人も増えているようです。

⑤価格が安価である

墓石を建てない、区画が小さくて済む、など費用面でのメリットは大きくなります。生前に楽しくお金を使う、という価値観、後継者がいない場合など、お墓にお金をかけない人たちも増えています。

● 樹木葬の費用について

樹木葬を取り入れている霊園や寺によりさまざまではありますが、まずは、今年話題となった都立小平霊園の場合を見てみましょう。(募集は7月に終了しています。))

	使用料（1体用）	使用料（2体用）	その他費用	合祀
小平霊園（粉骨）	44,000 円	88,000 円	2～3 万（粉骨）	○
小平霊園（遺骨）	134,000 円	268,000 円	なし	○

今回募集があった小平霊園の場合、最初から多くの遺骨と一緒に埋葬されるため、個別の納骨式ができない、改葬が行えない、などの問題があります。

民間霊園の樹木葬についても、最初から合祀される場合と、決まった期間は個別に埋葬されたのち、合祀される場合があるようですので、契約の前に確認することが必要でしょう。

なお、小平霊園の平成26年募集の樹木墓地については、遺骨を30年間個別に埋蔵した後、共同埋蔵される、という形になるようです。最初は個別に埋蔵してほしい、という方には次回の募集がチャンスかもしれませんね。

では、民間霊園の樹木葬の費用はどうでしょう。いくつか例をあげてみましょう。

	初期費用	年間管理費	埋葬料	特徴
花小金井ふれあいパーク	700,000 円 (1体用)	なし	なし	金属プレートに墓碑 永遠に合祀はされない
千の風未来園 (伊豆大島)	500,000 円 (家族用)	12,000 円/月	100,000 円 (1体につき)	何人でも埋葬できる ペットも可
千の風未来園 (伊豆大島)	600,000 円 (夫婦・個人)	300,000 一括	二人まではなし	夫婦どちらかが存命中は 何人でも埋葬可 ペットも可
いずみ浄苑 (町田市)	400,000 円 (1体用)	なし	30,000 円 (1体につき)	存命中は会員になること が必要・情報提供あり(年 会費 5000 円)

千の風、いずみ浄苑に関しては1体用から家族が継承していけるお墓、また、合祀、永代供養など様々なパターンがあります。樹木葬も家族の人数によっては費用がかさみますので、経済的なメリットだけを考えるのであれば、一般のお墓と変わらなくなる場合もあるでしょう。

また、樹木葬の場合、火事防止のため、線香をたくことが禁じられ、手を合わせてのお参りだけになる場合が多いようです。

樹木葬を選択する場合は、生前に自分自身の考え、残された人たちの気持ちを考え、よく話し合い、納得したうえで購入する必要があるようです。